

学習成果の観点別評価による質保証システムの構築

① 専門職域(保育系)に対する全国アンケート調査
「新人保育者に必要な資質・能力」

② 「学習成果」

育成される力	達成目標
①自己理解	自分の性格や行動の特徴を理解することができる。
②向上心	前向きに、自分のやるべきことの方角・目標を設定できる。
③表現力	自分の気持ち(感じたこと・考えたこと)を的確に把握し表現することができる。
④人間関係力	他者の気持ちを理解しながら、積極的に他者と関わり、協力的に活動することができる。
⑤常識・教養	社会や文化、自然に対して積極的な関心を持ち、考えを深めることができる。
⑥使命感	教育・保育に対する熱意を持ち、教員・保育者の役割を理解し、そのために必要となる姿勢・態度を持つことができる。
⑦子ども理解	子どもの心身の成長・発達に関する知識を基に、多様な子どもを理解し、その内面を汲みとることができる。
⑧教育・保育構想力	教育・保育内容を理解し、具体的な教育保育構想・計画を立てられるとともに、実践後は、それを振り返り、反省評価することができる。
⑨教育・保育実践力	子ども及び保護者と適切に関わるために必要な知識・技能を修得し、それを実践することができる。

③ シラバス例「国語科教育法」

学習成果の観点別成績評価

回	項目	内容	評価
1	小学校学習指導要領(国語)の理解と探究(1)	現在の国語科教育の概観(国語)の教育における位置づけ	国語科授業実践
2	小学校学習指導要領(国語)の理解と探究(2)	「目標」の変遷とその意味(領域構成)の機軸の学習の背景と各領域毎の領域	国語科授業実践
3	小学校学習指導要領(国語)の理解と探究(3)	領域「B 書くこと」の系統理解	国語科授業実践
4	小学校学習指導要領(国語)の理解と探究(4)	留意事項(毛筆書写、ローマ字、情報機器活用、学校図書館)に関する理解	国語科授業実践
5	国語教材の系統理解(1)	文学的文章(物語・詩)学習の歴史の変遷、及び現代的意義と目標	国語科授業実践
6	国語教材の系統理解(2)	説明文(説明文)学習の歴史の変遷、及び現代的意義と目標	国語科授業実践
7	国語教材の系統理解(3)	言語事項(語彙・漢字等)学習の歴史と目標	国語科授業実践
8	国語科学習指導案の理解と実践(1)	学習指導案の構成を知る	国語科授業実践
9	国語科学習指導案の理解と実践(2)	「指導過程」「評価の観点」の設定	国語科授業実践
10	国語科学習指導案の理解と実践(3)	実践「ごんぎつね」(物語)指導案の作成	国語科授業実践
11	国語科学習指導案の理解と実践	実践「ごんぎつね」(物語)指導案の討議	国語科授業実践

学習成果	到達目標	S	A	B	C	D	評価
①自己理解	自分のやるべきことの方角を自ら設定し、意欲的に取り組むことができる。						10
②向上心	自分のやるべきことの方角を自ら設定し、意欲的に取り組むことができる。						10
③表現力	自分の気持ち(感じたこと・考えたこと)を的確に把握し表現することができる。						10
④人間関係力	他者の気持ちを理解しながら、積極的に他者と関わり、協力的に活動することができる。						10
⑤常識・教養	社会や文化、自然に対して積極的な関心を持ち、考えを深めることができる。						10
⑥使命感	教育・保育に対する熱意を持ち、教員・保育者の役割を理解し、そのために必要となる姿勢・態度を持つことができる。						10
⑦子ども理解	子どもの心身の成長・発達に関する知識を基に、多様な子どもを理解し、その内面を汲みとることができる。						10
⑧教育・保育構想力	教育・保育内容を理解し、具体的な教育保育構想・計画を立てられるとともに、実践後は、それを振り返り、反省評価することができる。						10
⑨教育・保育実践力	子ども及び保護者と適切に関わるために必要な知識・技能を修得し、それを実践することができる。						10

④ 成績入力(e-ポートフォリオ)

成績はダミーデータです

学習成果	成績
①自己理解	A
②向上心	B
③表現力	C
④人間関係力	D
⑤常識・教養	A
⑥使命感	B
⑦子ども理解	C
⑧教育・保育構想力	D
⑨教育・保育実践力	A

学習成果の観点別成績評価

観点別成績を入力すると、自動計算で「成績評価」と「学習成果値」が入ります。

※ $4 \times 15 + 3 \times 20 + 2 \times 20 + 1 \times 25 + 3 \times 20 / 100 = 2.45$ (四捨五入) $\Rightarrow 2.5$ 成績評価A \Rightarrow 成績記入表(手書き転記)

⑤ ディプロマ・サプリメント

東海大学短期大学部 ディプロマサプリメント

学習成果	2017年度・前期	2017年度・後期	2018年度・前期	2018年度・後期	実践活動Ⅰ	実践活動Ⅱ
人間性	①自己理解: 3.5, 1	①自己理解: 4.0, 3	①自己理解: 3.5, 5	①自己理解: 3.8, 5	○	○
社会性	②向上心: 2.7, 1	②向上心: 3.3, 3	②向上心: 3.4, 2	②向上心: 3.4, 5	○	○
専門性	⑧教育・保育構想力: 3.6, 1	⑧教育・保育構想力: 3.3, 2	⑧教育・保育構想力: 3.5, 4	⑧教育・保育構想力: 3.2, 5	○	○

学習成果値: 当該学生が履修した科目の観点別評価(1~4)の平均値です。
面談評価: 大学が設定する9つの学習成果の習得に向けて、各学期ごとに「自己目標」を定め、学習活動を行います。
実践活動: 学習成果の習得に向けて、授業外に大学独自で設定している実践活動です。○は、この実践活動を通して当該学生が自覚した「強味」です。

⑥ 面談カウンセリング
半期に1回全学生に実施

e-ポートフォリオ 学習成果確認シート学生個票(例)

★当該学期に頑張る学習成果

面談カウンセリング内容(学習成果の達成確認/目標設定) \Rightarrow 学習成果に対する自己評価(ディプロマサプリメント)

アクションプラン

2017/04/24

⑦ 現場体験プログラム
毎週半日、全学生(2年生)が参加

e-ポートフォリオ キャリアインターンシップ 学生個票(例)

日付	自己設定課題	学生コメント	実践記録	教員コメント
2017/04/22
2017/04/29

受入先からのコメント入り実践記録

⑧ アセスメント

2018年度 観点別指標割合×観点別成績評価結果

17年(2018年度卒業生) 195名

既卒者観点別評価平均点(専門職のみ)

観点	平均点
自己理解	3.8
向上心	3.7
表現力	3.5
人間関係力	3.4
常識・教養	3.3
使命感	3.2
子ども理解	3.1
教育・保育構想力	3.0
教育・保育実践力	2.9

本学の取組成果と課題

- ディプロマ・サプリメントの活用
面談評価、学習成果値の相関確認 / 就職支援、学修支援ツールとして活用
- カリキュラムマネジメントの必要性
学習成果の見直し(バランス、観点) / 既卒者訪問結果のフィードバック / 各学期ごとの具体的な学習成果像の設定・提示の必要性
- FDの必要性
教員のシラバス作成スキル向上の必要性 / 学習成果の可視化による改善点の把握 / PDCAによる好循環へのプランニング

